

血液検査用総蛋白キット

# エクティア<sup>®</sup>XL '栄研' TP

## はじめに

血漿中の蛋白は80種以上存在し、ビタミン、脂質、薬剤、金属等の物質運搬、膠質浸透圧の維持、酸・塩基平衡等の役割を担っています。また、血中の濃度は蛋白摂取不足、合成組織障害、血漿蛋白漏出による減少、あるいは異常増成、体液量減少による相対的增加等、各種蛋白の合成と異化の動的平衡の異常を反映します<sup>1,2)</sup>。

エクティアXL '栄研' TPは、ビウレット法に基づいて開発された血清中の総蛋白を測定する試薬です。



## 特徴

- 本法はビウレット法です。
- 使いやすい液状試薬です。
- 各種自動分析装置への適用が可能です。

## 包装単位・貯蔵方法・有効期間

製品名	包装単位	製品コード	貯蔵方法	有効期間	適応機種例
エクティア <sup>®</sup> XL '栄研' TP	60mL×4	G-QJ17	室温保存	2年間	日立7170
	80mL×4	G-QJ18			日立7070
	500mL×2	G-QJ19			日立7250

(別売標準)

製品名	包装単位	製品コード	貯蔵方法	有効期間
TP-ALBキャリブプレートXL '栄研'	3mL×1	G-QJ90	2~8℃ (密栓厳守)	1年間

測定原理

蛋白のポリペプチド鎖にある4つの窒素がアルカリ性下でCu<sup>2+</sup>とキレート結合し、発色します。  
この色素を比色して総蛋白濃度を求めます。

使用目的

血清中の総蛋白の測定

測定範囲

0.2 ~ 9 g/dLまで直線性を確認してあります。

基礎データ<sup>3)</sup>

測定機器: 日立7180形自動分析装置

■ 同時再現性

単位: g/dL

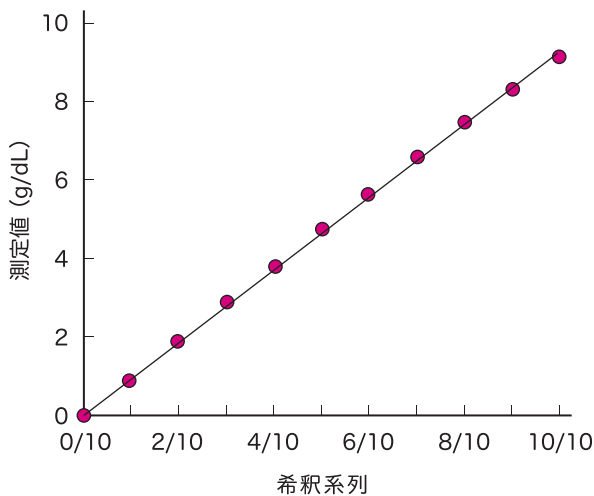
	試料1	試料2	試料3
N	20	20	20
Mean	5.31	6.65	7.44
S.D.	0.03	0.05	0.07
C.V.(%)	0.5%	0.8%	1.0%
Max.	5.4	6.7	7.6
Min.	5.3	6.6	7.3
Range	0.1	0.1	0.3

■ 妨害物質

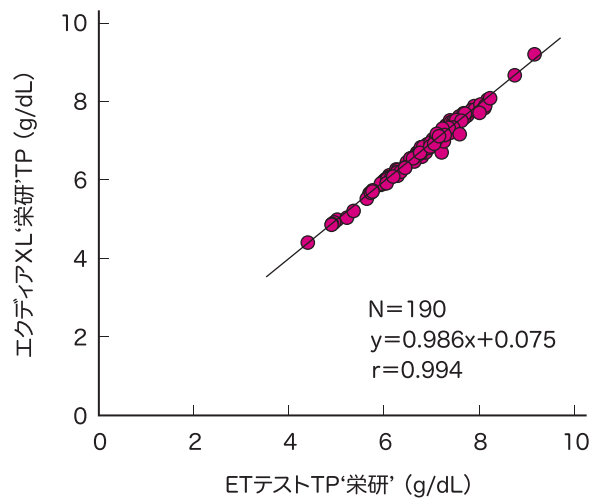
下記濃度まで測定値への影響は認められませんでした。

アスコルビン酸	20 mg/dL
遊離型ビリルビン	20 mg/dL
抱合型ビリルビン	20 mg/dL
ヘモグロビン	100 mg/dL
乳び	3000 ホルマジン濁度

■ 希釈直線性



■ 相関性



主要文献

- 1) 北村 元仕, 他: 実践臨床化学, 増補版, 医歯薬出版, 東京, 191-202, 1982.
- 2) 大谷 英樹, 他: 臨床病理学レクチュア-基礎からベッドサイドまで-, 朝倉書店, 東京, 138-139, 1986.
- 3) 社内データ

本試薬の使用上または取扱い上の注意については、製品添付文書をご参照ください。

